

演題名 病院環境管理に対する新しい試み（8）
～手術室に対する清掃業務支援システムの構築と差別化について～

小野 優 松下ファシリティマネジメント株式会社
大谷 勇作 株式会社 プラナ

1．目的

弊社が管理を受託している医療施設における、清掃管理の視点から実施した手術室運用の成功事例を紹介するとともに、他病院との差別化施策を提案する。

2．方法

手術室の機能の違いや病院独自の取決め事項などを熟知した清掃作業スタッフが複数室ある手術室のオペレータを清掃管理という観点から支援することにより、効率的且つ院内感染等にも留意して確立した手術室清掃管理手法を用いて運用状況を検討した。

3．結果

医療スタッフとの緊密な連携のもと、適切な清掃を遂行することが可能となり、手術スケジュールが改善され、年間手術件数を対前年度比で約 25% 増加させることが出来た。併せて看護師等の医療スタッフから本来の医療業務に専念出来るようになったとの評価を受けるとともに、本システムの導入が安全で効率的な手術室の運用を可能とすることが確認された。

4．考察

清潔区域である手術室は、病院の中でも非常に特殊な場所であり、清掃などの環境管理を適切に行うことが非常に難しい場所でもある。すなわち、手術の有無、種類及び実施時間帯などの運用内容によって実施する清掃業務も大きく影響されることとなるため、これらの内容に配慮した手術室に対する清掃業務管理システムを構築しておくことは非常に重要なことである。

併せて本システムを導入することによって手術室の施設の及び設備的、さらには運用的な問題点も明らかになった。

5．まとめ

2002年度の診療報酬改定によって、手術件数は診療報酬と深く関与することになったため、今後、本システムを導入することは病院の経営的な観点からも、さらに、病院の差別化にあたっても有用な手法の一つになると考えられる。

以上